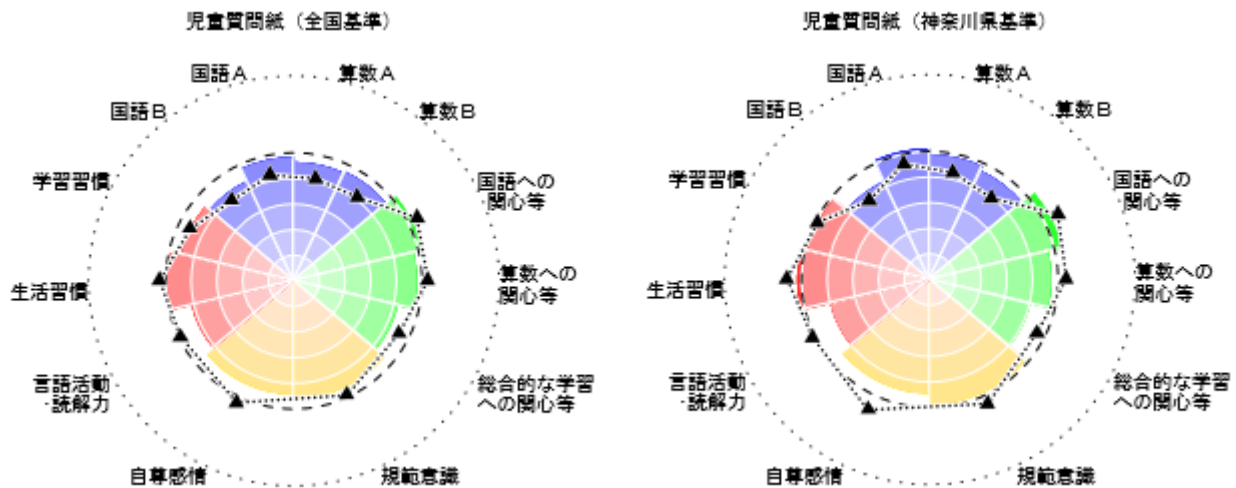


全国学力・学習状況調査結果について

平成 29 年 4 月に、6 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりましたのでお知らせ致します。

この調査結果をもとに、児童一人ひとりの力をつけることに取り組んでいきます。



【国語】（国語 A・国語 B）

国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、と「言語」に関する内容について学習します。

- ・国語 A は、学習した内容のうち、しっかりと身につけておいた方がよい基礎的・基本的なものを見る問題です。
- ・国語 B は、評価した理由を書いたり、文章や情報を比べたり関連づけたりして読み取ったり書き換えたりする問題です。

《調査結果》

本校の平均正答率は、全国平均正答率、国語 A（74.8%）、国語 B（57.5%）より下回っています。

○課題として考えられること

- ・漢字の読み取りは良い結果を示しているが、書き取りがやや弱い。
- ・会話の内容から物事のよさを捉える力が弱い。
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、必要な内容を整理して書く力が弱い。
- ・目的や意図に応じて、話しの構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを表現する力が弱い。

○課題に対する改善の手立てについて

- ・朝学習、家庭学習（漢字などの学習ドリル、プリントなど）の継続、推進。
- ・国語科だけでなく全教科を通して書くことを中心とした表現力の育成を図ったり、互いの考えを伝え合う活動を取り入れたりする。

【算数】(算数 A・算数 B)

算数では、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」に関する内容について学習します。

- ・算数 A は、学習した内容のうち、しっかりと身に付けておいた方がよい基礎的・基本的なものをみる問題です。
- ・算数 B は、学習した内容を使って、身の回りの場面を観察したり、いろいろな場合を調べたり、式や図、グラフなどが表している内容を読み取ったり、筋道を立てて考えたりする問題です。

《調査結果》

本校の平均正答率は、全国平均正答率、算数 A (78.6%)、算数 B (45.9%) より下回っています。

○課題として考えられること

- ・仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める力が弱い。
- ・示された事柄について、言葉、数、式、図などを用いて考え、説明する力が弱い。

○課題に対する改善の手立てについて

- ・朝学習、家庭学習（計算などの学習ドリル、プリントなど）の継続、促進。
- ・習熟度別での学習や少人数での学習を取り入れて、個に応じた支援ができるようにする。

【基本的生活習慣に関わる内容】

- ・学校以外の学習を 2 時間以上している割合は、全国平均 (27.1%) を下回っている。
- ・学校が休みの日の学習を 2 時間以上している割合は、全国平均 (24.6%) をかなり下回っている。
- ・朝食の摂取率は全国平均 (87%) をやや上回っている。
- ・就寝時刻および起床時刻が規則的である割合は、全国平均と同程度である。
- ・普段から読書を 30 分以上している割合が高い。
- ・地域行事への参加率が、全国平均 (62.6%) を上回っている。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に対し「ある」の割合がやや高い。
- ・規範意識「学校の決まりを守っている」が全国平均よりやや高い。
- ・自己肯定感「自分にはよいところがある」に対し、「そう思う」の割合が全国平均よりやや高い。

基本的生活習慣をしっかり身に付けていることが、学習面の向上や心のよりよい発達に結び付くと考えられている。

昨年に引き続き、規範意識や自己肯定感を高めつつ、学習意欲の向上と、それを学力に結び付けていくことが本校の課題である。基本的生活習慣の改善をはたらきかけることで、子どもたちが心身共に健全に育っていくよう支援していきたい。

また、テレビやスマートフォン、ゲームなどに費やす時間が毎年増加している傾向に危惧している。それらを利用することにより睡眠時間が減ってしまい、結果として学習意欲の低下につながっている子どもがいることも否めない。今後も家庭と積極的に連携して改善を図っていきたい。